

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより  
逢いてエ

# 雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い  
いろんな人がいるから楽しい

No. 498

2018年9月 **夕刊**

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉市緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

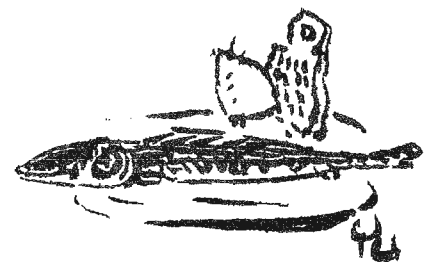
も・こ・じ

- 原発に頼らない未来像 2
- 「逝きし世の面影」 「原爆」 3
- 古便利から 7
- 「生物多様性と持続可能な生活」 13
- 『歴史と戦争』から 17
- 信濃百年 連泊 22
- 三浦ハイク 「荒井凌」 23
- 山仕事 (8月、大平) 24
- ケ・い・じ・ばん 26

## 秋が好きだ。

さしもの炎暑が去り  
空気の透明感が増す

たべものがうまい  
またおなかが出る……。



9月5日現在の  
会員数249名

この見本誌をみて新たに

「読んでみようか」という方は、

2018年3月まで 毎月 ~~250~~ 250 円を

郵便局で 00100-2-20630

「雑報友の会」

へ 併い込んで下さい。

題 字 敬 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)

カ ッ ト : 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※ この号の切手は、

海の生きもの ②

## 山仕事(8月、大平)

8月27日(月)、晴。康江さんが北海道へ行き、佐藤、原田、山崎さんと男ばかり4人。改装成った静岡駅の食売場で弁当を買う。若森の田んぼは、稲刈りが終わったところ、まだ穂が出ないところとさまざま。

この日の作業は田んぼのヒエとり。一週間後に稲刈りを控え、頭を垂れる稲の上につき出たヒエの繁茂。部分的には穂が見えなくなっている。ばきにくく脱ぎにくい田んぼ用の長靴をはき、腰に小カゴを二つくりつけ、田んぼに入る。伸びきったヒエを引きぬくのは至難の技。穂先だけ刈りとってカゴに入れる。

はっきりにして、もう勝負あった。ヒエはもう、来年用のタネをしかり地面に落としている。来年は、穂が出る前に刈ることしよう。

久米さん、鶴田さんに山ちゃんを加わった夕食は、マグロのステーキ、刺身(カツオ、アジ、本マグロ等)、納豆(ホシ)とナスの和之もの、野菜たっぷりのアロギ、紀文の竹輪(オクラ、ナスを挿入)、サラダ(レタス、キゅうり、トマト)に正士さんの手打ちソバ。かえしとだしは、毎回久米さんが用意してくれたもの。

訂正を一つ。前回の記事で、久米さんの詩をのせる曲を「アメージンググレイス」と書いたが、正しくは「コンドルはとんでゆく」だった。

暑い夜、英ちゃんと二人、母屋で寢寝。

8月28日(火)、晴れのち曇り。午前、ソバ畑の草刈り。松田永幸さんが、メロン3ヶ拵って参加。今回もマムシが出たが、見逃すことにした。

午後、正士さんの遠縁になる人がトラクタにのって来て耕やしてくれる。二回耕やす間、皆で石拾い。毎年やっているが、次々と湧いてくるようだ。

耕やし終わると5区画に分け、一人1区ずつタネをまく。さて、誰のからましく芽を出すか。まき終わると、もう一度浅く耕やす。夕暮れが迫る中、正士、若林さんと三人で鳥除けのキラキラテープ張り。19時近く終了。

夕食は、ベビー帆立での酒蒸し、山ちゃん手製のコロケ(油で揚げない)、下関の和代さんが届いた白銀(おまほこ)、ゴヤーチャンプル、アロギ(昨日の)豆もやし、谷中しょうが、おソバ。おにぎりもあったが、もう手が出ない。

この夜は、松田さんがさびしう。いつもは伊藤患一郎さんの車にのるが、首をいためて来られないため、お酒がのめばいい。だから、山ちゃんとの掛け合いもいまひとつ元気がない。英ちゃんの演奏会も。

8月29日(水)、晴。鶴田さんも加わりヒエとりの続き。小柄な鶴田

さんはヒエにみくれて姿が見えない。心配した正士さんが声をかける。  
昼は、そうめんに久米さん手製のイチジクのコンポート(?)

日頃「仏の正士」の異名がある正士さんだが、今回はいつになく憤懣やる方ない様子。これまでも何度かふれた財産区の採草地の問題だ。従来、ゴルフ場の外縁部として貸しつけ、いくばくかの借料をもらっていた。経営が苦しくなってきたゴルフ場から返したいと言われ、何年か押し問答が続いていた。何年か前、ぼくも正士さんについてゴルフ場に行き、かけ合ったことがある。

それがどうやら、返ることになったようだ。正士さんは、財産区に善良な管理をするよう求めるが、借料が入らなくなる財産区は、「放置し山林にすれば」とか「スギ山にしたら」とか言ばかり。正士さんの茶園の上にある採草地は、財産区としては「大平南地区」限りの問題として、まともにとり合おうとしない。

業を煮やした正士さんは、大平南地区23戸を対象に各戸の意見を聞き、それをもとに財産区の議会に掛け合おうとした。(正士さんは、大平を代表する唯一の議員) 7月末に実施したアンケートを見せもらったが、設問は15項目に及び、しかも記名式。回答は少なく、期待したほど前向きなものではなかった。高齢化が進み、経営をやめる家がふえているなかで、自らにはね返りかねない積極的な意見は出しにくかったことと思う。

そこで正士さんは、ぼくたちにも意見を求めてきたという次第。

ぼくは、おおよそ次のように考えを伝えた。

- すたに採草地としての利用は途絶えているが、正士さんが貴重な植生を存するため現状を大事にしたいという気持は、よくわかる。
- しかし、「大平地区の問題」として他人争視する財産区議員の大勢を覆すことは困難だ。但し、同様の問題は全国各地で起きている。外部からの支援もふえつつある。狭い地域の問題にとどめずに議論してはどうか。
- 説得が不調に終われば、いっそ正士さんが借り受け採草地として正式に利用したらどうか。「元氣山」「ホリデイ・アース」「猫の手」など応援しよう。
- 高齢化などでそれが難しくなれば、クヌギ、サクラ、カエデなどの疎林に移行、一部に現在の植生を残し、遊歩道を整備し、観賞用とすればよい。
- 稀来にわたる問題なので、正士さんの後を継ぐだるう啓史さんに、押しつけでなくキチンと話をしておくべきではないか。
- 老爺じとして一言。正士さんの考えは「正論」だ。だが、毎回同じように正論をくり返すことが必ずしもよいとは限らない。大谷翔平投手だって直球を投げ続けるだけでは通用しない。時に変化球も混ぜたらどうか。

多謝